

氏 名	じらたなていていなん ありやぽん JIRATANATITEENUN ALIYAAPON
学位(専攻分野)	博 士 ( 学 術 )
学 位 記 番 号	博 甲 第 6 6 5 号
学位授与の日付	平成 25 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
研 究 科 ・ 専 攻	工芸科学研究科 設計工学専攻
学 位 論 文 題 目	A Comparative Study of Street Fashion Dynamics in Japan, Korea, and Thailand (日本、韓国、タイにおけるストリートファッションの比較研究)
審 査 委 員	(主査)教授 佐藤哲也 教授 鋤柄佐千子 教授 森本一成 教授 澤田美恵子 信州大学特任教授 梶原莞爾

## 論文内容の要旨

本研究は、衣服文化の一つであるストリートファッションについて、文献調査や実地調査を通して、日本のストリートファッションの特徴を分析し、その変容と伝播について考察している。また、日本、韓国、タイの若い女性を対象に、ファッションに対する意識と行動、ならびに、ファッションに関連する状況を調査し、3カ国間の相違や類似性について考察している。

申請論文は8章から構成されており、以下に各章の概要を示す。

第1章では、研究の背景と目的、本研究に関連する先行研究、本研究で対象とするストリートファッションとそれを取り巻く社会的状況、ならびに、論文の構成について述べている。

第2章では、研究を進める上での有用な方法を調べ、その詳細について述べている。

第3章では、日本のストリートファッションの起源と特徴について、また、ストリートファッションの中でも最も特徴的なロリータとコスプレについて考察している。具体的には、第2章で述べている方法論に沿って、文献調査、ファッション雑誌の解析、コスプレヤーに対するインタビュー調査などを行っている。その結果として、たとえば、日本のストリートファッションが東京の地域ごとに特有のスタイルを持ち、それらが時の流れとともに変化・融合をしていることを見出している。また、特別な価値観を共有している人々の間であったロリータやコスプレが、ある時期を境に一般の社会の中でも広く認知されてきたことも見出している。

第4章では、2006年と2011年の間に、女子学生のストリートファッションに対するアンケート調査と実地調査を行い、ファッションの変容について分析・考察している。アンケート調査は、2006年に最初に行なわれ、2008年、2010年および2011年に行い、それらの調査結果とその比較から、6種に分類したストリートファッションのスタイルが変容して11種に増えてきたことを見出している。また、2007年以降の景気後退やポピュラーなファーストファッションが変化の原因であったと分析している。

第5章では、2010年の日本と韓国の間の女子大生の日常の習慣的なファッション行動の違いについて考察している。ファッション行動について問うアンケート調査を、東京と韓国のソウルと

テグで女子大生を対象に行い、その結果、たとえば、日本に比べ韓国ではインターネットを通して購買行動をよく行うことなどを見出し、韓国の女子大生は自分の意志によって購買行動をとると考察している。

第6章では、日本とタイの間の若い女性の日常の習慣的なファッション行動の違いと類似性について考察している。ファッション行動について問うアンケート調査を東京とバンコクで女子大生を主とする若い女性を対象に行い、たとえば、タイの若い女性のファッション行動の中に日本のストリートファッションの影響があることを見出している。

第7章では、2011年の日本、韓国、タイの3カ国の若い女性のファッションに関連する状況について比較・考察している。ファッションに関連する状況について問うアンケート調査を、東京、ソウル、テグ、バンコクで、女子大生を主とする若い女性を対象に行い、得られた回答に対してクラスター分析などを行い、3カ国間での違いと類似性を見出している。具体的には、日本では日本のファッション雑誌から情報を得ていることが多いのに対して、韓国とタイでは欧米のファッション雑誌から情報を得ていること、またさらに、日本では購買時にショップスタッフによく聞き、ショップスタッフがファッションリーダー的な役割を果たしていることに対して、韓国とタイでは、ショップスタッフの役割は大きくないことを見出している。

第8章では、研究全体の総括を述べている。

## 論文審査の結果の要旨

本研究は、衣服文化の一つであるストリートファッションについて、文献調査や実地調査を通して、日本のストリートファッションの特徴を分析し、その変容と伝播について考察している。また、日本、韓国、タイの若い女性を対象に、ファッションに対する意識と行動、ならびに、ファッションに関連する状況を調査し、3カ国間の相違や類似性について考察している。

申請者は、最初に、本研究で対象とするストリートファッションとそれを取り巻く社会的状況、本研究に関連する先行研究、ならびに、研究を進める上での有用な方法を調べている。そして、日本のストリートファッションの特徴や変容、また、その要因を知ることを目的として、文献調査、ファッション雑誌の解析、アンケート調査、インタビュー調査などを行っている。それらの結果から、日本のストリートファッションが東京の地域ごとに特有のスタイルを持ち、それらが時の流れとともに変化・融合をしていることを見出し、6種に分類したスタイルが11種に増えてきたと分析している。そして、その原因が2007年以降の景気後退やファーストファッションの浸透であったと考察している。また、特別な価値観を共有している人々の間であったロリータやコスプレが、ある時期を境に一般の社会の中でも広く認知されてきたことも見出している。

また、日本、韓国、タイの3カ国の若い女性のファッション意識や行動、ならびに、ファッションに関連する状況についてアンケート調査と実地調査を行い、その結果や3カ国の比較から、たとえば、日本に比べ韓国ではインターネットを通して購買行動をよく行うこと、また、タイの若い女性に日本のストリートファッションの影響があることを見出している。さらに、日本では日本のファッション雑誌から情報を得ているのに対して韓国とタイでは欧米のファッション雑誌から情報を得ていること、日本では購買時にショップスタッフによく聞き、ショップスタッフがファッションリーダー的な役割を果たしていることに対し、韓国とタイでは、ショップスタッフの役割は大きくないことを見出している。

以上の研究成果は、世界から注目されている日本のストリートファッションの特徴とその変容・伝播を、若い女性のファッション意識・行動とともに見出しており、衣服文化の一端を考察する新たな試みとして評価できる。

本論文の内容は、申請者を筆頭著者として公表された査読論文4編を基礎としている。

<学術論文>

- 1) Aliyaapon Jiratanatiteenun, Chiyomi Mizutani, Saori Kitaguchi, Tetsuya Sato, Kanji Kajiware, The Transformation of Japanese Street Fashion between 2006 and 2011, *Advances in Applied Sociology*, Vol.2, No.4, p.292-302, DOI: 10.4236/aasoci.2012.24038 (2012, 12)
- 2) Aliyaapon Jiratanatiteenun, Chiyomi Mizutani, Saori Kitaguchi, Tetsuya Sato, Kanji Kajiware, Habitual Difference in Fashion Behavior of Female College Students between Japan and Thailand, *Advances in Applied Sociology*, Vol.2, No.4, p.260-267, DOI:10.4236/aasoci.2012.24034 (2012, 12)
- 3) A. Jiratanatiteenun, S. Kitaguchi, T. Sato, K. Kajiware, DYNAMICS OF STREET FASHION IN JAPAN AS REPRESENTED BY COSPLAY AND LOLITA, *Proceedings of The Textile Institute Centenary Conference*, CD-ROM, not paged, 15 pages, ISBN 978-0-9566419-1-5 (2010, 11)
- 4) A. Jiratanatiteenun, H. Jung, S. Kitaguchi, T. Sato, K. Kajiware, CHARACTERISTIC FEATURE OF JAPANESE STREET FASHION: LOLITA, GOTHIC-LOLITA, AND COSTUME PLAY, *Proceedings of the XXII IFATCC International Congress*, CD-ROM, not paged, 6 pages, ISBN 9788896679005 (2010, 5)